

故實叢書

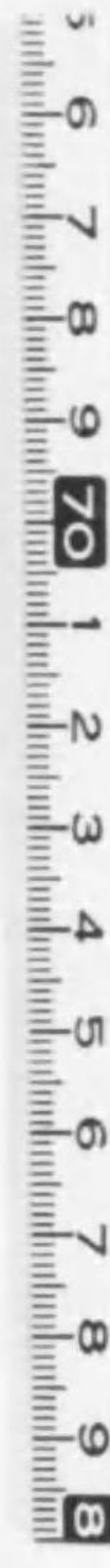
鎧着用次第

#273-939

#273



939



陸軍文庫  
門番  
15  
100  
1  
三番

陸軍文庫  
第三番  
本番三番  
一

始



特273  
939



鎧着川次第

7

5

8

1

義家朝臣鎧着用次第圖

左中將義貞朝臣記鎧可着次第之事

一番浴衣

(蘇源抄并鴉敷物語ニ手綱トアリ同シ事ナリ)

マタニハサマル所チマク程ニハカラヒテ前ホロヲ横マ  
ハシト共ニ取りアゲテ兩手ニテクルミナデサダレバオ  
ノヅカラクルノトマカル、也カクスレバユルミハブ  
ル、事ナシ

同前

シテ脇立ニ同ジ如クス

二番小袖

(蘇源抄ニ練貫帯トアリ)

帶ハ前ニナムスビテアマリサバオシカヒハサミ置ク  
三番(精好) (半大口トヲタケ短キナリ)

同前

直垂ノ左ノ袖チ肩ノ際迄マクリ上ゲテク、リ緒チシ  
テ脇下ニナムスブ餘リチ三ツ組ニシテク、リノ内へ押  
シ入レ置ク

三番

(半大口トヲタケ短キナリ)

緒ノ餘リヲ捕ヘ重キテ紐ニイテヘモマキツケ置クナリ

同前

右ノ手蓋チサシテ緒チ右ノ脇ニテ結ブ緒ノトメヤウ三  
ツ組ノ事右ニ同ジ

四番亂髮

(蘇源抄ニ練貫帯トアリ)

ヘリヌリ又ベンスリ共云フ一名引立エボシト云フ後ノ  
カドノ引立ナタルヤハカナル物ナリカブリテ後エボシ  
ノ後ノ方チ内へオシコム

十四番鎧

(一名キセナガ)

鎧イマダ着セザル時先袖ノ前後ノ緒チワタカミノ前後  
ノクミニ結ヒ付クベシ静ノ緒ハ後ノクミニ結ヒ付クベ  
シ水ノミニ緒ハアゲマキノ横手ニユヒ付ク何レモ結付  
様カモククシニシテ餘リチカカカギニ結ブ左右ノセンダ  
ンノイタモモカ紐ニ結ヒ付ケオクベシ結付様ハ前ニ同ジ

五番鉢卷

(白布八尺五寸)

前ニテ左右トリ合セモザリテ左ハ左ヘマハシ右ハ右ヘ  
マハシ後ニテモロカギニムスビ垂ル、ナリ

同前

鎧トツタナゲカケ置キテタカ紐トアヒ引ノ緒チカケ合  
セテ次ニ右様上下ノ引合緒チ結ヒカカカギニ結ヒテ餘  
リチ三ツ組ニシテオシカヒオクウハオビ後ニテモザリ  
前ニテカカカギニムスビテ餘リチ三ツ組ニシテオシカ  
ヒオクアゲマキノハ何色ニテモ色々アリ紅ニカギルベカ  
ラズ

六番弓懸

七番鏡直垂

先袴ニ左足チフミ入レ次ニ右足チフミ入レ其儘ニス  
置キ次ニ上チ着テ扱袴チ引立テ前腰チアテ常ノ如ク着  
スベシ後ゴシノ緒前ニナムスビテマキテハサミオク

同前

是ハ海老サヤマキノ刀ナリ上帯ニサシテ下緒オヒ又マ  
ネキノワナニ通シマムスビニシテ餘リチサヤニ打チカ  
ケ置クベシ常ノサヤマキノラバ上帯ニサシテ下緒チ帶  
ノ上ニ引キコシテサヤニ一マトヒマキテ一ムスビシテ  
餘リチサヤニウチカケオクベシ

同前

ヒモノ結ビヤウ左モ右モ紐チ中ヨリ二ツニナリテワナ  
ノ方チトリアマムスビニスレバモロカギニムスビタル  
ゴトク見ユルナリ或説ニ直垂ノ上ノ裾チ袴ノ内ヘキ  
コマズ外ヘ出シテ着ル、本也云云不用之スベテ上下ア  
ルモノナリ右ノ如ク着スルハ打カケテ略義ナリ

十五番刀

(小刀左右ニアリ)

八番脛巾

(鴉敷物語ニ脚半トアリ同シ事也)

先左次ニ右チハク紐ハカカカギニムスブアマリチヒチ  
リテオシカヒオク

十六番太刀

(兼太刀イカモノ作)

九番括 (鴉敷物語ニシメユヒトアリ同シ事也)  
ク、リチシメヨセテ緒チカカカギニムスビテ餘リチ三  
ツ組ニシテ袴ノ裾ノ内へオシ入レ置ク

何太刀ニテモアレハキ様同ジ弦袋チアシ緒ニ付クル太  
刀ノ足緒上帯ノキハへ固ク引キツメテハケバ太刀心ヨ  
クヌケズオビヨリ遠ノケテユルヤカニ垂レハクベシ帶  
取チ上帯ニ通シ一カラミシテ前後引廻シ右脇ニテカカ  
カギニムスビ餘リチ三ツ組ニシテ押シハサミ置クベシ  
帶取チ上帯ニ通サズ一カラミセザレバユルミテ太刀前  
後へ廻リテアシ、ツルマキ赤革黄革小紋革又藍革等也

十番隨當

先左次ニ右チアツル緒ノ結様脛巾ニ同ジ

十一番頰貫

先左次ニ右チハク緒ノ結様スキ當ニ同ジ

十七番征矢

是ハ黒ヌリ簾ナリ何簾ニテモ負ヒヤウ同ジカケテ、左  
ノ肩ノ上ヨリ前へ打チコシテウケ緒ニカケテ結ブベシ  
餘リチ三ツ組ニシテオシカヒ置クナリ簾ノ上帯モ前ニ  
テ結ブナリ緒ノトメヤウ同前

十二番脇立

上ノツボノワナハ首ノ左ニ掛クル下ノ二ツノツボノ緒  
ハ前後へ引廻シ前ニムスブ結ビ様カカカギニムスビテ  
餘リチ三ツ組ニシテオク

十八番弓

弦チ下ヘナシニギリヨリ上五寸計ノホドチトリテ提ゲ  
テ持ツベシ軍陣ニハ丸木弓本式也雨露ナドノシメリチ  
イトフ事ナシ

十三番手蓋

(小手之事也)

先右ノ手蓋チサシテ左ノ脇ニ緒チ結ブ余リチ三ツ組ニ

貞丈按一條兼良公鴉敷物語并に樂人豐原家之秘書蘇源抄等に載する所の義家朝臣鎧着用  
之次第右之義貞朝臣の記に少しも違ふ所を古傳信すべきものなり



直垂有文



水干無文

布直垂無文

壹番浴衣



二番小袖



三番大口



四番亂髮 圖略之  
五番鉢卷



六番弓懸



七番鎧直垂



同前



八番脛巾



九番括



十番 隨當



十一番 頰貫



十二番 脇立





十三番手蓋



同前



同前



同前



十四番鎧



同前

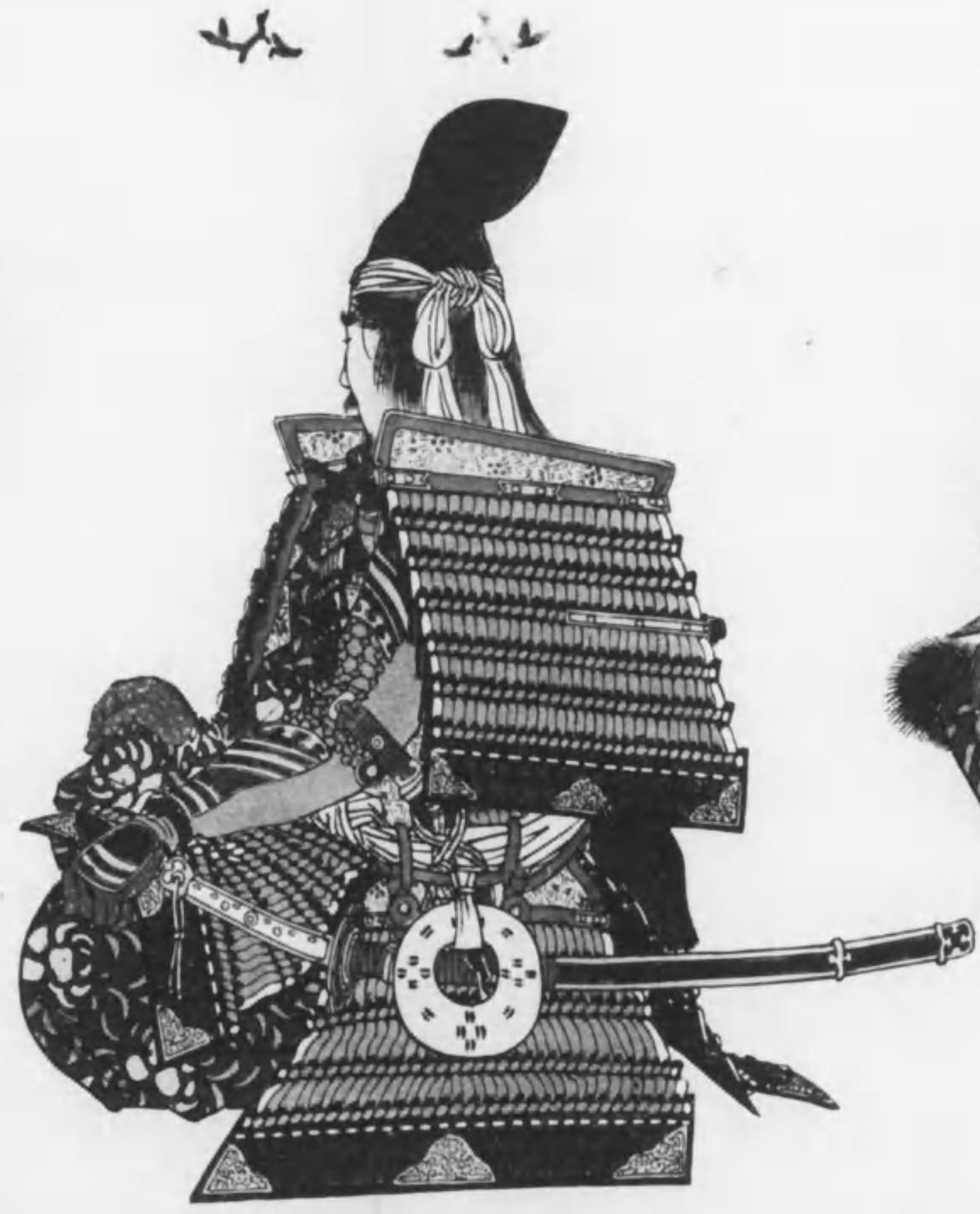


十五番刀



十六番太刀

十七番征矢



十八番弓



二

三

四

五

終

